

寝たきり高齢者における下腿潰瘍・足潰瘍の実態と 治癒促進に関する看護技術の検討

著者	大桑 麻由美
著者別表示	Okuwa Mayumi
雑誌名	平成17(2005)年度 科学研究費補助金 若手研究(B) 研究概要
巻	2004 2005
ページ	2p.
発行年	2016-04-21
URL	http://doi.org/10.24517/00061051



寝たきり高齢者における下腿潰瘍・足潰瘍の実態と治癒促進に関する看護技術の検討

Research Project

All

Project/Area Number

16791430

Research Category

Grant-in-Aid for Young Scientists (B)

Allocation Type

Single-year Grants

Research Field

Community health/Gerontological nursing

Research Institution

Kanazawa University

Principal Investigator

大桑 麻由美 金沢大学, 医学系研究科, 助手 (30303291)

Project Period (FY)

2004 - 2005

Project Status

Completed (Fiscal Year 2005)

Budget Amount *help

¥3,400,000 (Direct Cost: ¥3,400,000)

Fiscal Year 2005: ¥600,000 (Direct Cost: ¥600,000)

Fiscal Year 2004: ¥2,800,000 (Direct Cost: ¥2,800,000)

Keywords

足部潰瘍 / 寝たきり高齢者 / 循環障害 / ABI / 下肢潰瘍 / 寝たきり / 高齢者

Research Abstract

目的は寝たきり高齢者の下腿・足部の潰瘍の治癒遅滞に関する要因を明らかにし、看護が介入可能なケアを検討することであった。

入院中の65歳以上の寝たきり高齢者30名41個の下腿・足部潰瘍を治癒まで(治癒しないものは発生から3ヶ月まで)定期的に生理学的指標(皮膚温とABI)・血液データ・体圧を測定した。ケア介入は除圧ケア(体圧分散寝具・体位変換)、スキンケア(足部の清潔方法)、栄養ケア(栄養摂取経路・摂取カロリー)、その他追加された場合は抽出した。

結果は、対象の平均年齢は81.2歳で、治癒潰瘍は13個、治癒しない潰瘍は20個、5名8個の潰瘍は3ヶ月を待たずに転院したため転帰は不明となり分析から除外した。両群の比較では、生理学的指標は治癒群の末梢(足趾部)皮膚温が高い傾向にあり、創周囲の皮膚温に25度未満の低温部がないことが特徴的であった。またABIは治癒群の方が有意に大きく平均0.81であった。血液データには差はなかった。また治癒しない潰瘍群は1人で複数個を保有することが多い傾向にあった。

ケアでは体圧分散寝具の種類は差がなかったが、体位保持枕使用個数に差があり治癒群の方が少なかった。スキンケアでは治癒しない群の方が、靴下着用が多かったが有意な差はな

く、清潔ケア方法にも差はなかった。栄養は経腸栄養または経静脈栄養の割合・摂取カロリーに差はなかった。

以上のことより、寝たきり高齢者の治癒を決定する要因は、ケアよりも患者個々の要因・血流状態の良否に左右されることが推察された。また施設では、褥瘡ケアの延長として足部潰瘍のケアを実施していたが、治癒促進のためには新たな方策が必要と考えられた。血流状態を改善することは容易でなく、予防に重点をおく必要があると考えられた。

Report (2 results)

2005 Annual Research Report

2004 Annual Research Report

Research Products (1 results)

All 2005

All Journal Article

[Journal Article] A Prospective Cohort Study of Lower Extremity Pressure Ulcer Risk among Bedfast Elderly in Japan

2005 ▾

URL: <https://kaken.nii.ac.jp/grant/KAKENHI-PROJECT-16791430/>

Published: 2004-03-31 Modified: 2016-04-21